

平成 28 年 2 月 24 日

平成 27 年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書

神戸大学附属図書館情報管理課雑誌情報係

下村 昌也

平成 27 年度国立大学図書館協会海外派遣事業により、米国の大学図書館を訪問し、調査研究を行ったことを以下の通り報告する。

1. 派遣期間

平成 27 年 9 月 7 日（月）～ 平成 27 年 9 月 12 日（土）

2. 訪問先 / 担当者

University of California Los Angeles / Vessela Y. Ensberg

University of Southern California / Amy Chatfield

University of California San Diego / David Minor

3. 調査研究内容

「北米大学図書館におけるデータキュレーションサービスの現状についての調査」として、大学図書館に置けるデータマネジメントサービスの実施状況について、いち早くこの事業に取り組みを始めている米国の 3 つの大学図書館で聞き取り調査を行った。

4. 成果

ひとくちに米国といっても、データマネジメントサービスの実施状況には大学間で大きな違いがあることが分かった。まず一つに、図書館が中心としてデータマネジメントサービスを行っているか否かといったことがある。カリフォルニア大学の 2 校では早い段階から図書館がサービスに関与しており、現在も図書館の寄与する割合が大きいものに対し、南カリフォルニア大学では、図書館の役割は補助的なものとどまっているようだった。また同じカリフォルニア大学間でも、ロサンゼルス校とサンディエゴ校でそれぞれ特色があり、ロサンゼルス校では **Research informationist** と呼ばれる、研究室との結びつきが強いエンベディッド的なライブラリアンの存在が特徴的であるのに対し、サンディエゴ校では確固とした体制のもと、チームプレーによりデータマネジメントサービスを推進しているといった印象であった。また、3 校に共通して、サブジェクトリポジトリや DMP 作成ツール、利用者教育用の教材など、既存の資源を有効に活用しているということを感じた。今回の出張を通して、大いに参考になる知見が得られたと感じている。